

2026年12月期 第2四半期 決算説明資料

2026年8月7日

ソースネクスト株式会社

前期比較について

本資料における損益計算書の2025年12月期につきましては、当期との比較しやすさを考慮し、特段の注記がない限り、前年同月として記載しております。

2025年1月1日～2025年3月31日は、会計期間としては2025年3月期第4四半期ですが、本資料では2025年12月期第1四半期として取り扱います。また、2025年4月1日～2025年6月30日は、会計期間としては2025年12月期第1四半期ですが、本資料では2025年12月期第2四半期として取り扱います。それ以降の四半期も同様です。なお、監査法人による監査は受けておらず、あくまで比較情報のための参考情報です。

決算期の変更について

2025年6月20日開催の定時株主総会決議をもって、3月決算から12月決算に変更しました。従来はグループ会社間で決算月が異なっていましたが、グローバルスタンダードに合わせて決算月を統一することで、国内外のステークホルダーへの適時・適切な情報開示を実施するとともに、グループ全体の経営管理および事業運営の効率化を図ることを目的としています。

変則決算について

2025年12月期につきましては、2025年4月1日から12月31日までの9か月間を対象とした変則決算です。

- 2025年3月期（従来） : 2024年4月1日～2025年3月31日（12か月）
- 2025年12月期（移行期） : 2025年4月1日～2025年12月31日（9か月）
- 2026年12月期以降（当期） : 1月1日～12月31日（12か月）

目次

1 ハイライト

2 事業の近況と今後の見通し

- 1) ソースネクスト事業
- 2) ポケットーク事業
- 3) 業績補足説明

1. ハイライト

連結損益計算書(前期比/累計)

単位：百万円

項目	前期 2025年1-6月	当期 2026年1-6月	前年同月比	
			増減金額	増減率
売上高	5,515	5,364	△151	△2.7%
営業損失	△2,014	△805	+1,209	-
営業利益率	△36.5%	△15.0%	-	+21.5pt
経常損失	△2,619	△867	+1,752	-
経常利益率	△47.5%	△16.2%	-	+31.3pt
中間純損失	△2,621	△775	+1,845	-
中間純利益率	△47.5%	△14.5%	-	+33.0pt

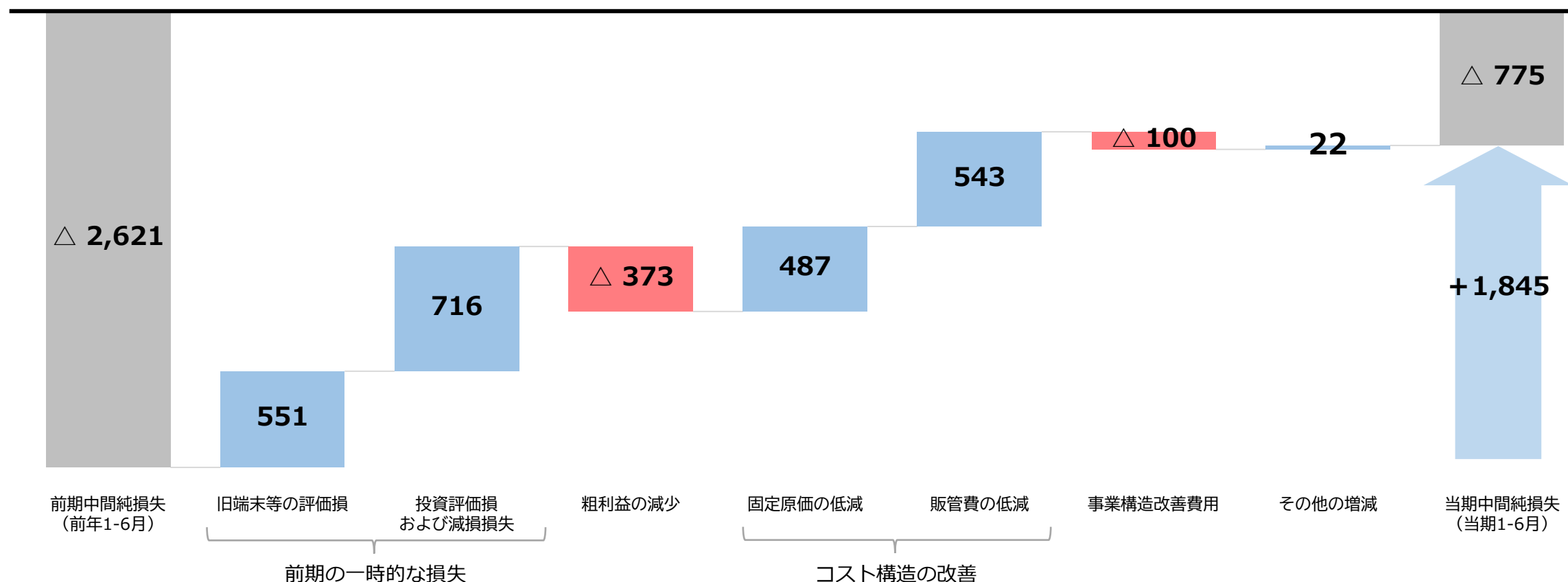
注) 中間純損失 = 親会社株主に帰属する中間純損失

営業損失及び経常損失は大幅に縮小 黒字化に向け、収益構造の改善を進める

- 自社ブランド「DIGI+」やスマートリング「Oura Ring」などハードウェア製品の販売が拡大したものの、ポケットークの販売減少が影響し、売上高は前年同月比で減少
- 経常損失、中間純損失は大幅に縮小し、収益性は改善傾向
- 前期は「ポケットーク」の旧製品及び投資有価証券等の評価損として一時的な損失が12億67百万円発生したが、今期は発生なし
- 売上原価や販売管理費を削減したことにより、将来にわたって継続性のある収益の改善を推進

連結中間純損失の増減(前期比/累計)

単位：百万円



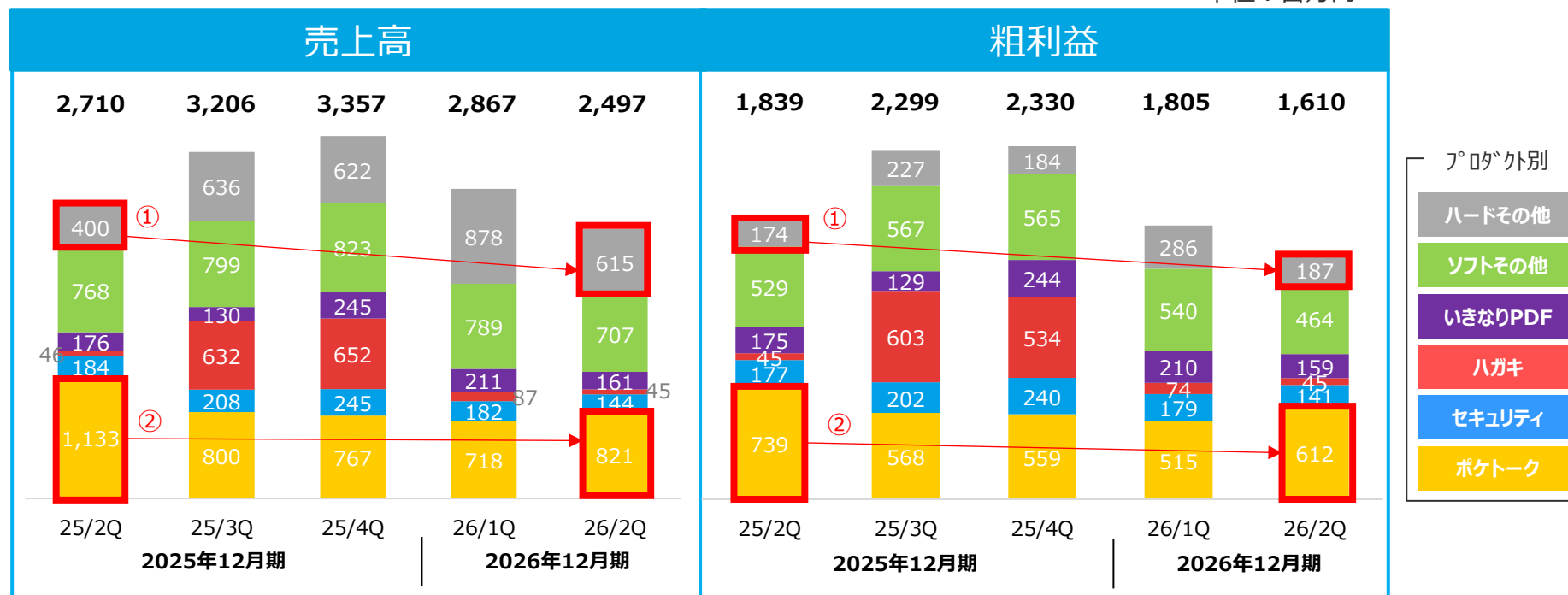
- 前期は「ポケットーク」旧製品、投資株式の評価損等により、一時的に損失が生じたが今期は発生していないことにより改善
- ポケットーク社の海外事業において、収益性重視の運営体制への転換を推進したことに伴い事業構造改善費用を計上
- 当社・ポケットーク社において、固定原価及び販管費の構造を見直したことにより、利益率を改善

注) 粗利益は各製品・チャンネルに直課できない開発費等の共通費を除いており、売上総利益とは一致しません

注) 増加・減少は利益に対しての影響です

連結売上高・粗利益の推移(プロダクト別/四半期)

単位：百万円



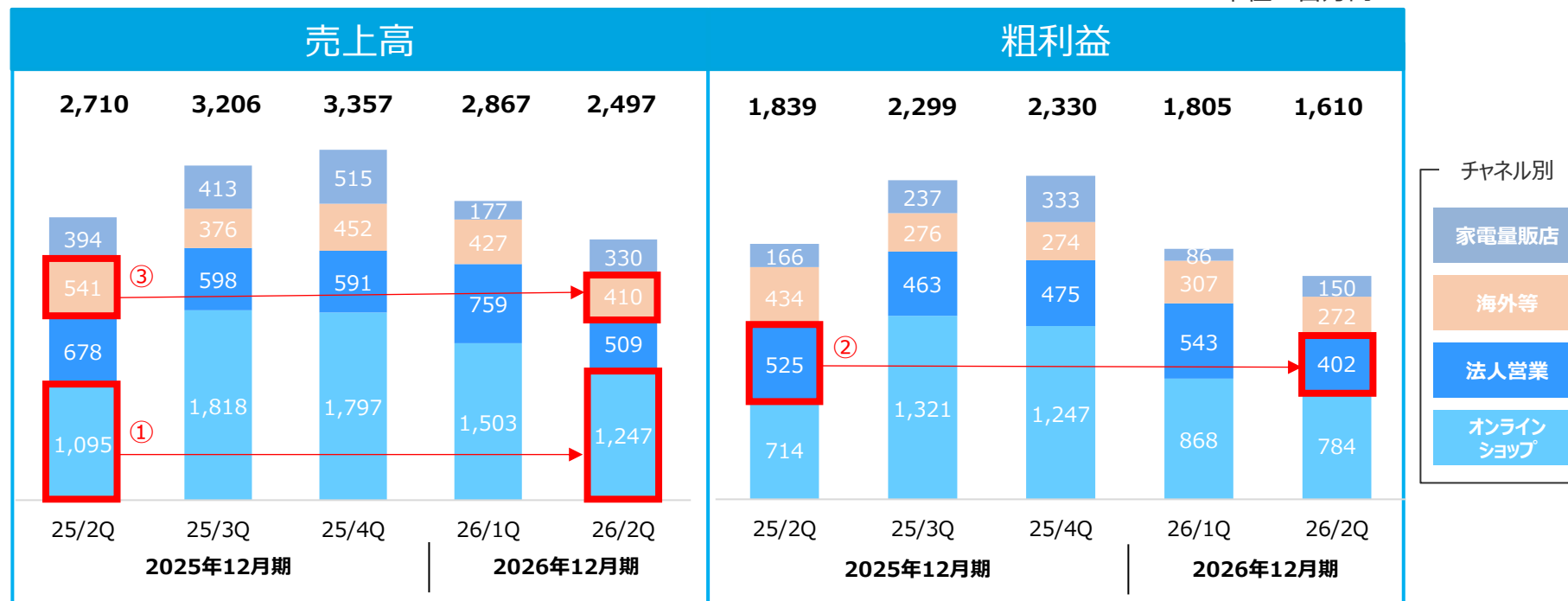
注) 粗利益は各製品・チャネルに直課できない開発費等の共通費を除いており、売上総利益とは一致しません

製品ラインナップの拡大によりハードウェア製品が伸長

- ① 前期に発生したWindows11移行に係る特需の反動で、ソフトウェア製品を中心に販売が減少したものの、スマートリング「Oura Ring」や当社独自ブランドのハードウェア製品「DIGI+」は好調に推移。なお、ハードその他は売上の増加に対して粗利益の増加幅が小さいが、仕入元がマーケティング費用を一部負担しており、販管費も減少しているため営業利益ベースでは十分な利益を確保
- ② 「ポケット」においては、米国の教育機関向け政策の変更により販売は前年同期比で一時的に減少したものの、欧州の販売は増加。さらに通信費やハードウェア製造原価を見直したことなどにより、利益率も改善

連結売上高・粗利益の推移(チャネル別/四半期)

単位：百万円



注) 粗利益は各製品・チャネルに直課できない開発費等の共通費を除いており、売上総利益とは一致しません

注) 2025年1Q決算の粗利益において、家電量販店と海外等の数値に一部差異があったため、過去資料から訂正しております

オンラインショップは伸長、法人営業・海外は減収

- ① オンラインショップは、当社独自ブランドのハードウェア製品「DIGI+」などの販売が好調に推移し、売上高は1,247百万円と大きく伸長
- ② 法人営業では、「いきなりPDF」や「Meeting Owl」などの法人向け商材が堅調に推移した一方で、大手通信キャリアのサービス縮小の影響を受け、スマートフォンアプリのサブスクリプション型サービスが低調だったことで、売上高・粗利益ともに減少
- ③ 海外等では、米国の教育機関に対する売上が減少したことにより、前年同期からは減少

連結貸借対照表

単位：百万円

項目	2025年12月末	2026年6月末	前期比	
			増減金額	増減率
流動資産	10,302	8,972	△1,330	△12.9%
現金及び預金	4,918	4,571	△346	△7.1%
売掛金	1,592	1,157	△434	△27.3%
商品及び製品	2,953	2,642	△311	△10.5%
固定資産	4,242	3,842	△399	△9.4%
総資産	14,544	12,815	△1,729	△11.9%
流動負債	5,922	5,014	△907	△15.3%
固定負債	1,834	1,964	+129	+7.1%
純資産	6,787	5,835	△951	△14.0%
自己資本比率	38.3%	36.9%	△1.4pt	-

注) 自己資本比率は、(純資産-新株予約権-非支配株主持分)/総資産で算出

社債による資金調達を実施しつつ、財務の安全性を維持

ポケットーク株式会社 損益計算書(連結)

単位:百万円

項目	前期 2025年1-6月	当期 2026年1-6月	前年同月比	
			増減額	増減率
売上高	2,117	1,485	△631	△29.8%
売上総利益	781	783	+2	+0.4%
売上総利益率	36.9%	52.7%	-	+15.9pt
販売費及び一般管理費	1,859	1,370	△488	△26.3%
人件費	601	530	△70	△11.7%
業務委託費	348	337	△10	△3.0%
広告宣伝費	228	34	△193	△84.8%
営業損失	△1,078	△586	+491	-
営業利益率	△50.9%	△39.5%	-	+11.4pt

販売数の減少により減収したものの、コスト構造を見直したことで赤字幅は大幅減少

< 米国 >

- 米国政策の見直しにより、米国における「ポケットーク」の売上高が減少
- 販売体制・運営体制の最適化により、収益性を重視した経営体制に移行

< 欧州 >

- 人員体制及びプロモーション費用の見直しを進め、収益性を改善
- 26年1-6月で、営業利益の半期黒字化を達成

< 日本 >

- 2025年12月期の減損の影響で売上原価が減少
- 通信費とハードウェア製造原価を見直し、利益率を改善
- 主にタレント契約の終了により広告宣伝費が減少

ソースネクスト株式会社 損益計算書(単体)

単位:百万円

項目	前期 2025年1-6月	当期 2026年1-6月	前年同月比	
			増減額	増減率
売上高	3,893	3,939	+45	+1.2%
売上総利益	1,345	2,045	+699	+52.0%
売上総利益率	34.6%	51.9%	-	+17.3pt
販売費及び一般管理費	2,323	2,265	△57	△2.5%
人件費	348	328	△20	△5.9%
業務委託費	741	750	+9	+1.3%
広告宣伝費	364	330	△33	△9.2%
営業損失	△977	△220	+757	-
営業利益率	△25.1%	△5.6%	-	+19.5pt

ハードウェア商材の販売が好調のため増収し、業務改革を進めていることで収支は大幅改善

< 売上原価の改善 >

- 前期は「ポケトーク」旧製品端末の評価損を実施したが、当期は評価損の対象となる資産はなし
- 「ロゼッタストーン」の事業売却により、減価償却費が減少

< 販売費及び一般管理費 >

- コストコントロールを継続的に実施していることで前年同月比57百万円の削減を達成
- AIを活用した業務効率化等により、費用全体を抑えつつ、必要な外部リソースには投資をし、将来の利益を生み出す基盤を形成中

2. 事業の近況と今後の見通し

1) ソースネクスト事業

生成AI活用を前進させる製品ラインナップを順次拡充

生成AIの普及が進む一方、現場では「読み込めない」「整えられない」「安全に使えない」といった障壁となっています。当社は、複雑な技術を、誰でも使いやすい製品として提供し、現場の課題解決に向けた製品ラインナップを順次拡充しています。

NEW



「いきなりAI 情報マスキング」(Win/Mac)

PDFやテキスト内の機密情報を、文脈を保ったまま代替テキストに置換

安全にAIへ渡せるデータへ

文脈を保ち、AIで扱いやすいデータに整備

NEW



「いきなりAI 瞬間テキスト」(Win)

画像やPDF内のコピーできない文字を、囲むだけでテキスト化

コピーできない文字をテキストへ

画像内の情報を、AIで扱いやすい形に変換



「0秒読書」(Win/Mac)

電子書籍や資料を自動でページ送りし、AIが読める透明テキスト付きPDFを作成



「いきなりAIファイルフィット」(Win)

多様なファイルをAI対応形式へ一括変換。各AIの制限に合わせて自動で変換・分割

NEW



「いきなりAI 会議レコーダー」(Win/Mac)

会議音声を録音し、議事録化に活用しやすい音声ファイルを保存

会議音声をAIで使いやすく

録音後の整理や議事録作成を、スムーズに

NEW



「いきなりAI マイノートLM」(Win/Mac)

手元の資料をもとに要約・回答・音声解説を自動作成。処理はパソコン内で完結

手元の資料をAIで活用

社内資料や手元の情報を、オフライン環境で検索・整理



「いきなりAI 音声タイピング」(Win/Mac)

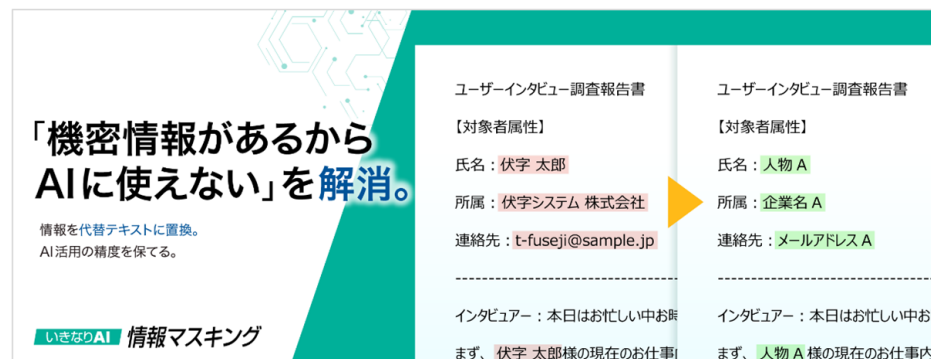
話すだけで文字入力できる音声入力ツール。オフライン動作で、機密情報の取り扱いも安心

今後も用途別の製品ラインナップの拡充により、利用者接点の拡大と収益基盤の強化を進めてまいります



「いきなりAI 情報マスキング」

PDFファイルやテキストファイル内の機密情報を、代替テキストへ置換できるマスキングソフト



01 代替テキストの埋め込みで文脈を維持

個人情報や機密情報を自動検出し、文脈を維持する代替テキストへと置換

02 透明テキストを残さず、安心

見かけ上は隠れて残っているテキストデータまで消去

03 安心のオフライン処理

機密情報を削除する処理は、お客様のパソコン内部のみで完結



「いきなりAI マイノートLM」

登録した資料だけを参照して回答するオフライン型のAI文書解析ソフト



01 Gemini Notebookの便利さをオフラインで

資料の処理をローカル環境で実行するので、機密資料もAIで安心して活用

02 複数の資料を横断して、根拠つきで回答

チャット形式の質問に対し、関連箇所を複数資料から回答

03 要約・FAQ・学習ガイドを自動生成

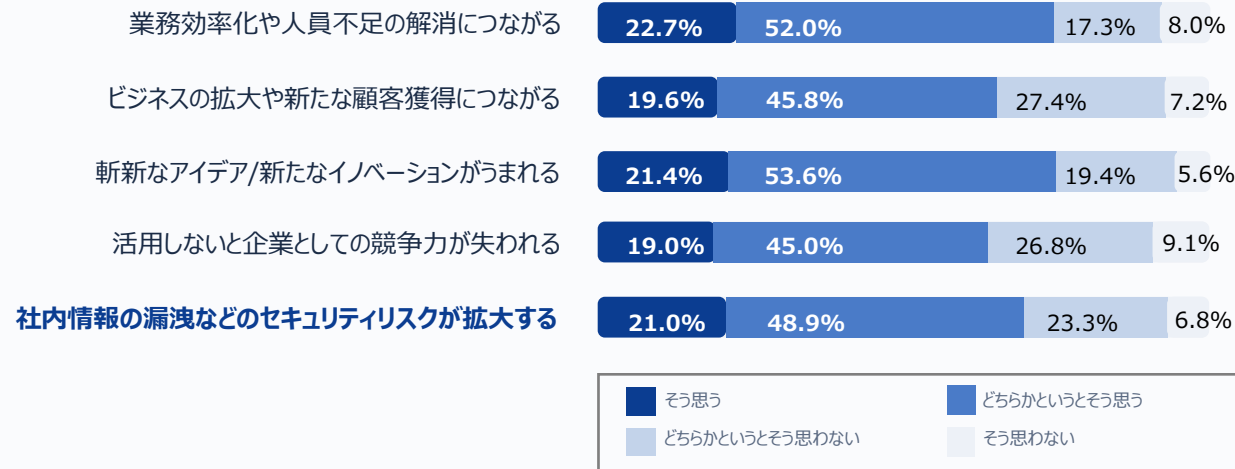
読み込んだ資料から、要約やFAQのたたき台をAIが自動で作成

“オフライン完結”が拓く、約110万社の潜在市場

生成AI活用への期待が高い一方、情報漏洩などのセキュリティリスクへの懸念も約7割。
情報を外部に出さず使えるオフライン型AI製品は、このギャップを埋める有力な選択肢です。

生成AI活用における期待と懸念

生成AI活用による効果・影響



(出典) 総務省 (2024) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」をもとに当社作成

試算 | 国内の潜在ターゲット規模

国内の企業等数(注1)

368万社

×

生成AIを業務で活用する
方針を定めている企業(注2)

42.7%

×

情報漏洩などの
リスクを懸念 (注2)

約70%

÷

オフラインAI製品の想定ターゲット企業数 (注3)

約110万社

生成AIを活用する方針を定めている企業であっても、情報漏洩のリスクが懸念される
業務では利用を控えるケースが存在することも考慮すると、想定企業数は推定値を
上回ると見込む

オフライン型AI製品は、セキュリティ懸念で生成AIの活用を見送る企業の導入障壁を下げる製品として期待されます。
当社はこの市場機会を捉え、販売拡大とラインナップ拡充を進めてまいります

注1 総務省「令和3年経済センサス-活動調査」令和3年6月1日現在の企業等数(3,684,049企業)

注2 総務省(2024)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

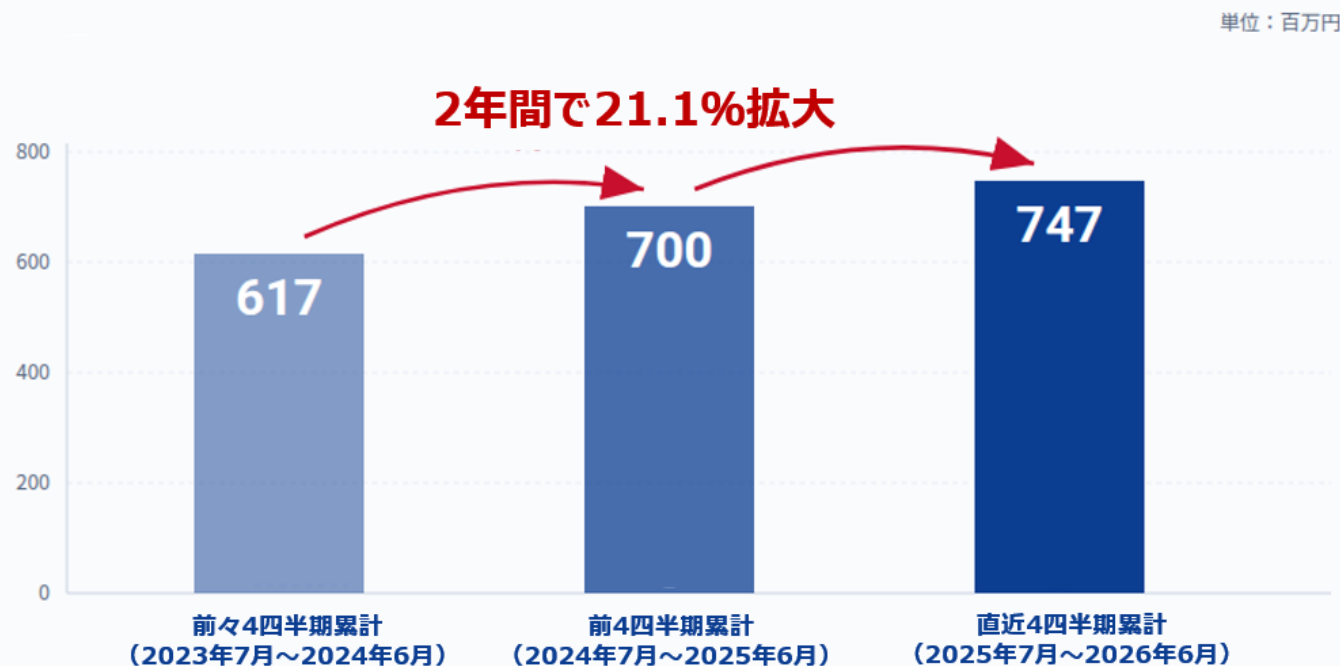
注3 潜在ターゲット企業数は上記2指標を単純に乘じた当社参考試算であり、実際の需要規模や販売見込みを示すものではありません



自治体への導入を着実に拡大、前年同期比で成長を継続

四半期単体は案件計上タイミング等で変動するも、4四半期累計（年換算）では売上高・粗利益ともに2年連続でプラス

売上高の推移



ポイント

01 自治体を中心に導入拡大が進展

自治体を中心に導入数を着実に積み上げ。文書業務のデジタル化ニーズを背景に、公共領域における導入拡大に注力

02 売上計上は案件タイミング等により四半期変動

自治体案件は入札・契約時期の集中により売上計上が四半期ごとに変動する特性を有する

03 極めて高い粗利率、収益性の高い事業として推移

ソフトウェア製品の特性上、粗利率は約99%前後で安定推移。導入数の積み上げが、中長期の収益貢献拡大に直結する事業構造

自治体を中心に導入拡大を進めており、今後も導入団体数の積み上げを通じて、中長期での収益貢献拡大を目指してまいります

「Oura Ring 5」の日本での販売を開始

前モデル比 40%小型化。驚くほど薄くて軽い、世界最小のスマートリング



01 小型化×高精度センサー

前モデル比40%小型化。大型化したセンサーで、心拍・体温・呼吸を高精度に計測

02 1週間バッテリー

1回の充電で6～9日間持続。装着感を忘れるほど軽量のオールチタン製

03 50以上の健康指標 × アプリ連携

睡眠・ストレス・心臓・女性の健康指数まで網羅。40以上のアプリとシームレスに接続

「Oura Ring」は、2015年の販売開始以降、累計販売数が550万個を突破し、その半数以上は過去1年間に販売されています。ŌURA社の2024年の年間収益は5億ドルを超え、前年比で2倍以上を記録しました。当社は、日本における「Oura Ring」の正規販売代理店として、引き続き本製品の販売を促進し、睡眠・ヘルスケア市場の拡大を収益機会として確実にとらえてまいります（出典：OURA HEALTH OY社, 2025年9月発表）

世界最小について：2025年第1四半期時点におけるグローバルスマートリング市場調査（商業流通しているヘルスモニタリング、NFC/決済、フィットネス、ハイブリッド等の200以上のブランド・モデルを対象）において、公開仕様および物理テストに基づく容積（ボリューム）比較の結果。各社同等サイズ（本製品サイズ6基準）における比較

2) ポケットーク事業

海外事業の運営体制の転換

各国・地域の事業フェーズに応じ、
成長性・収益性の高い領域へ 経営資源を重点配分

3 PILLARS OF THE TRANSFORMATION / 転換の3つの柱

01

販売体制の最適化

各国・地域の事業フェーズに応じ、ディストリビューター網を含む販売チャネルを再編し、効率的な販売体制を構築

02

人員体制の見直し

重点領域への人員シフトを進め、成長性・収益貢献度の高い機能に経営資源を集中配分

03

プロモーション投資の適正化

各市場のフェーズに応じ、投資対効果を厳格に管理。収益性を重視した運営体制へ転換

FUTURE OUTLOOK

持続的に利益を創出できる事業体質を構築。欧州で確立した収益性重視モデルを米国等へ展開

POCKETALK B.V. / 欧州事業

2026年上期 営業利益半期黒字化を達成

ANNUAL PROFIT IMPROVEMENT / 年間営業利益改善

3億円

規模の営業利益改善を実現

MILESTONES / 黒字化ロードマップ

- 1 2025年 単月黒字化
- 2 2026年1Q 四半期黒字化
- 3 2026年上期 半期黒字化
▶ 収益体質の定着が進展

KEY DRIVERS / 黒字化を支える3つの取り組み

01 ディストリビューター網の整備

販売パートナー網を整備し、営業レバレッジを効かせた効率的な販売体制を構築

02 継続的な黒字体質

事業フェーズに応じた最適な人員体制、費用対効果の高いプロモーション施策への集約を実施。固定費を圧縮しつつ、成長領域へ配分

03 医療分野を中心とした需要の拡大

欧州の医療機関や公共サービスの現場における、多言語対応ニーズが拡大。第三者実証評価でも「ポケットーク」の有効性が評価

FUTURE OUTLOOK

効率性と収益性を重視した運営を継続し、**安定的な利益創出体制**を確立

POCKETALK Inc. / 米国事業

欧州事業と同様に、収益性重視の経営体制へ移行

ANNUAL PROFIT IMPACT / 年間収支改善見込み

6億円

以上の収支改善を見込む

TRANSITION SUMMARY

法人・公共領域で築いた事業基盤を土台に、
販売・運営体制の最適化を進め、
収益性重視の経営体制へ移行。

KEY DRIVERS / 構造改革のポイント

01 法人・公共領域の基盤活用

これまで築いた顧客基盤を土台に、収益性の高い
受注へ経営資源を集中

02 販売・オペレーションの最適化

欧州で成果を上げた運営モデルを米国へ展開し、固
定費を圧縮

03 構造改革による黒字化定着

固定費を圧縮したことで、継続的に収益が生み出せ
る基盤を構築

FUTURE OUTLOOK

年間6億円以上の収支改善を通じ、米国事業の黒字化を推進。法人・公共領域の受注拡大による収益基盤の安定化を継続

『2026 AI 50 Award』K-12 Education Project 部門を受賞

米国の公共機関におけるAI活用の先進的な取り組みを選出するアワードを受賞

AWARD

主催 : Center for Public Sector AI

2026 AI 50 Award

K-12 Education Project 部門

KEY POINT / 評価されたポイント

AI通訳ソリューションの「導入」ではなく
学区全体の運用として多言語コミュニケーション支援を組み込み、
教育現場における言語アクセスの向上に繋がった点で評価

01

学校の日常業務を
支えるインフラ

授業だけでなく、登校時の受付や体調
確認、進路相談、保護者への案内など
さまざまな場面でポケットを活用

02

受付・保健室・
カウンセリング等に配備

迅速かつ安心して利用できるコ
ミュニケーション手段が求められる
場で不可欠なツール

03

情報格差の
低減に寄与

必要な案内・支援に、
つながりやすい運営へ

CASE / 導入事例

米国メリーランド州の公立学校区

Prince George's County Public Schools

学校の受付・保健室・カウンセリング部門などに配備

SCALE / 活用実績

「ポケット」シリーズの学区導入実績

世界500以上

の学区で活用

ポケットーク 製品ラインナップ

PRODUCT LINEUP

2024年10月発売



ポケットーク S2
AI通訳機

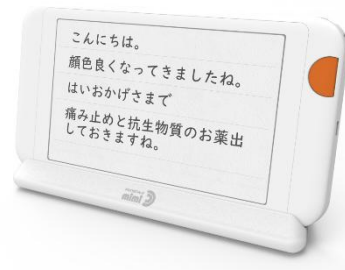
2026年発売予定



ポケットーク X
カウンター用通訳機

2026年発売予定

POCKETALK
mimi



ポケットーク mimi 2
完全オフラインAI筆談機

2026年発売予定

POCKETALK



ポケットーク V
ルーム用AI通訳機

FUTURE

新製品α
製品開発中

STRATEGIC OUTLOOK

用途別の5製品で、個人・法人・公共領域を網羅し、グローバル翻訳市場におけるプレゼンスを拡大

2026年発売予定

ポケットーク X

カウンター用翻訳機



01 両面ディスプレイ搭載

対面の多言語会話を瞬時に翻訳・表示

02 高感度マイク&人感センサー

精緻な音声認識と自動で画面が起動するスマートセンサー

03 プライバシー配慮設計

会話履歴をワンタッチ消去、公共空間でも安心して利用可能

「ポケットーク X」実証実験

関西国際空港

- 1時間あたり約60～100人の外国人利用者が訪れる現場での実運用を検証
- 日常的に多言語対応が求められる現場を支える社会インフラとしての発展を目指す



関西国際空港 第1ターミナル4階案内カウンター

「ポケットーク X」実証実験

三井アウトレットパーク札幌北広島

- 小売・観光の現場で課題となる多言語対応について、実際の接客現場で運用しながら効果を検証
- これまでスタッフのスキルに依存してきた外国語対応を、テクノロジーで支える仕組みへ転換



三井アウトレットパーク札幌北広島 北海道四季彩館

「ポケットーク X」 展示会への出展

メディカル ジャパン 大阪

- 外国人の増加を背景に、日本の医療機関では患者との言語コミュニケーションが新たな課題
- 医療機関や介護施設、薬局などでの外国人患者対応の支援や、スタッフと利用者の円滑な意思疎通を実現する活用方法を提案



医療・介護・薬局の総合展示会「メディカル ジャパン 大阪」

「ポケットーク X」 展示会への出展

国際モダンホスピタルショウ



「国際モダンホスピタルショウ2026」

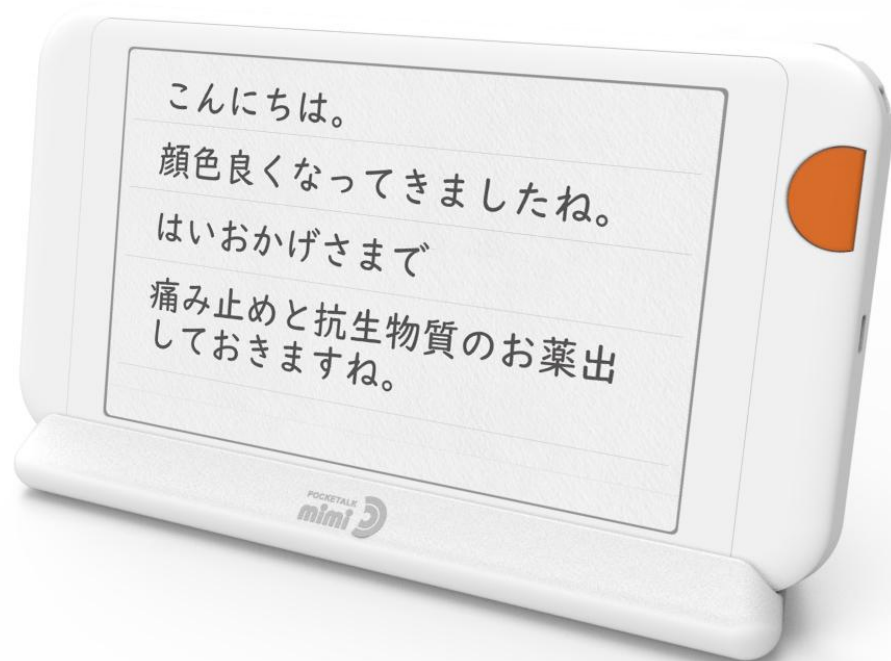
「ポケットーク X」 展示会への出展

ホテル・レストラン・ショー&FOODEX JAPAN in関西

- 訪日客の増加により、宿泊施設や飲食店では言語の多様化に対応するべく、スタッフの確保やツール導入・運用の負担が課題
- 受付やカウンター、クローク、レストランの案内口など、多くのお客様と対面でスピーディに会話する場面での利用を想定



「ホテル・レストラン・ショー&FOODEX JAPAN in 関西2026」



2026年発売予定

ポケトーク mimi 2

完全オフラインAI筆談機

- 01 **いつでもどこでも即利用可能**
通信環境に依存せず、どんな場面でも利用できる
- 02 **セキュリティリスクゼロ**
完全オフラインのため、情報漏洩リスクなし
- 03 **リアルタイムで高速文字化**
通信環境に依存しないため、速く安定した動作

国内 補聴市場の規模と普及率

1. 対象顧客規模と潜在需要

国内の難聴自覚者数

約 **1,430** 万人

出典：日本補聴器工業会「JapanTrak 2022」

難聴者の補聴器所有率

15.2%

未所有比率は約 84.8%（構造的な未充足）
出典：日本補聴器工業会「JapanTrak 2022」

潜在市場規模（集音器を含む）

370 万台／年

= 補聴器 70万台 + 集音器 300万台
出典：ソースネクスト／ポケットーク社推計

2. 補聴器所有率の国際比較（2022年）—日本は欧州対比で低位

日本		15.2%
ドイツ		41.0%
フランス		46.0%
イギリス		53.0%

対象：自己申告で難聴があると回答した人のうち、補聴器を所有している割合。各国とも調査年は2022年（同一調査系列）

出典：日本補聴器工業会「JapanTrak 2022 調査報告」p.102「各国の補聴器普及率比較（自己申告）」

- ・国内の難聴自覚者 1,430万人に対し補聴器所有率は 15.2%。欧州対比で普及率は約1/3にとどまる
- ・集音器を含めた潜在市場は、年間370万台規模。国内補聴市場は、大きな需要が残存している

「ポケットーク mimi 2」 展示会への出展

メディカル ジャパン 大阪

- 話した音声を即座に文字化することで、難聴者との会話における聞き返しや筆談の負担を軽減
- 医療機関や介護施設、薬局などでの難聴者対応の支援や、スタッフと利用者の円滑な意思疎通を実現する活用方法を提案



医療・介護・薬局の総合展示会「メディカル ジャパン 大阪」

「ポケットーク mimi 2」 展示会への出展

国際モダンホスピタルショー



「国際モダンホスピタルショー2026」

「ポケットーク mimi 2」 展示会への出展

自治体・公共Week

- 話した音声を即座に文字化することで、難聴者との会話における聞き返しや筆談の負担を軽減
- 日本国内の難聴自覚者は約1,430万人。医療機関や介護施設、公共サービスなど幅広いシーンにおいて、新たな需要を創出



「自治体・公共Week」

Future

新製品a

ポケットークの次なる挑戦

2027年発売に向け、 製品開発中



PRODUCT IMAGE
後日公開予定

ポケットーク 製品ポートフォリオの拡大

「圧倒的な使いやすさ」を軸に、用途別の5製品でグローバル翻訳市場でのプレゼンスを拡大

PRODUCT LINEUP

2024年10月発売



ポケットーク S2

AI通訳機

- ✓ 92言語対応 (91言語を音声とテキストに、1言語をテキストのみに翻訳)
- ✓ 世界170以上の国・地域でモバイル通信内蔵、Wi-Fi不要
- ✓ バッテリー持続時間を大幅改善
- ✓ 「ポケットーク アナリティクス」連携でセキュリティ強化、企業・自治体導入に対応

2026年発売予定



ポケットーク X

カウンター用翻訳機

- ✓ 両面ディスプレイで対面の多言語会話を瞬時に翻訳・表示する据え置き型端末
- ✓ 高感度マイクによる精緻な音声認識
- ✓ 人感知による自動画面起動のスマートセンサーを搭載
- ✓ 会話履歴をワンタッチで消去できるプライバシー設計（公共空間向け）

2026年発売予定



ポケットーク mimi 2

完全オフラインAI筆談機

- ✓ 通信環境に依存せず、どんな場面でも利用可能
- ✓ 完全オフラインのため、情報漏洩リスクなし
- ✓ 通信環境に依存しないため、速く安定した動作でリアルタイムに高速文字化
- ✓ 家庭内、医療・福祉、公共機関、教育現場などさまざまな場面での活用を想定

2026年発売予定



ポケットーク V

ルーム用AI翻訳機

- ✓ 会議室に「その場に通訳がいる状態」を常設
- ✓ ディスプレイのHDMI端子に接続するだけで利用可能
- ✓ 複雑な設定は不要、シンプルな導入プロセス
- ✓ 既存のディスプレイ環境をそのまま活用可能

FUTURE

新製品α

製品開発中

STRATEGIC OUTLOOK

用途別の5製品で、個人・法人・公共領域を網羅し、グローバル翻訳市場におけるプレゼンスを拡大

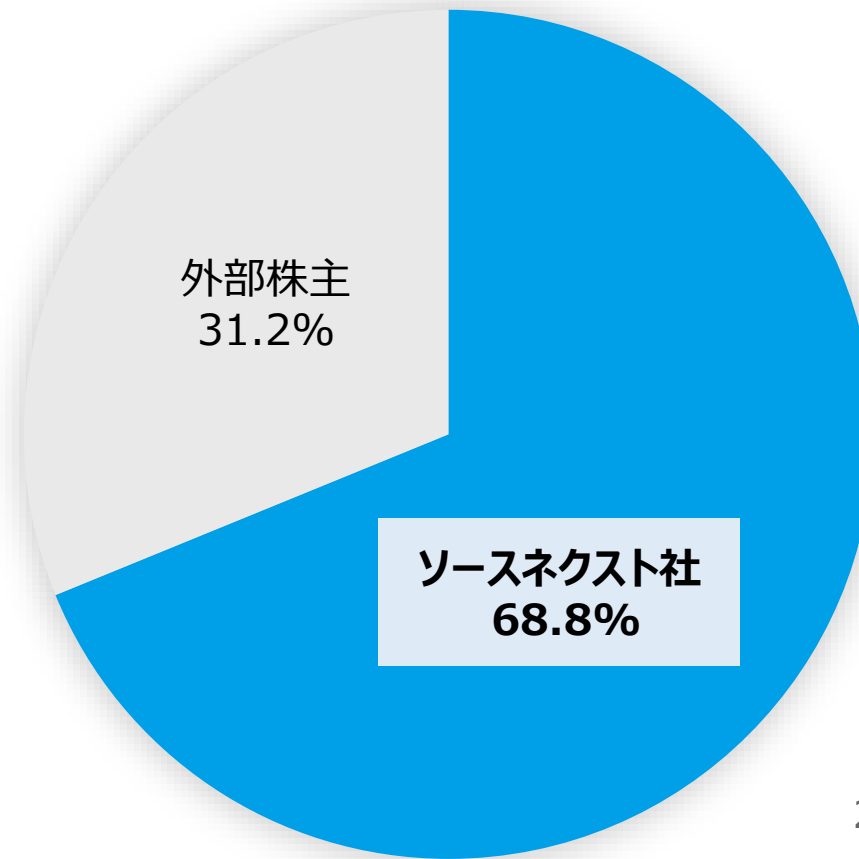
注）発売時期・仕様は変更となる場合があります

Copyright© SOURCENEXT CORPORATION All rights reserved.

株式保有方針

ポケットーク社の株主構成

時価総額312.4億円



2026年7月7日時点

当社はポケットーク社上場後も、ポケットーク社株式の過半数を継続的に保有する方針です

ポケットーク株式会社の上場について

目的

ポケットーク株式会社の上場により、さらなる製品開発およびグローバル市場における販売強化、人材の確保を目指します。当社の主力事業として、今後のさらなる成長が期待できる分野への投資を積極的に行なってまいります。

資金使途

本上場に伴う株式売却により得られる資金は、新製品・サービスの新規開発やマーケティング等に充当するとともに、財務体質の強靱化を図ります。これにより、持続可能な成長基盤の構築を実現してまいります。

株式過半数維持の背景・目的

ポケットーク社の自主性・独立性を確保しながらも、株式の過半数を保持することで、ソースネクストグループとしてポケットーク社の事業拡大を連結業績へ反映させること、当社グループ子会社の市場価値や社会的信用力の向上などにより、当社グループの企業価値を最大化できると考えたためです。また、今後のグローバル展開において、グループとしての相乗効果を最大化するためにも、この資本関係の維持が重要であると判断いたしました。

進捗状況

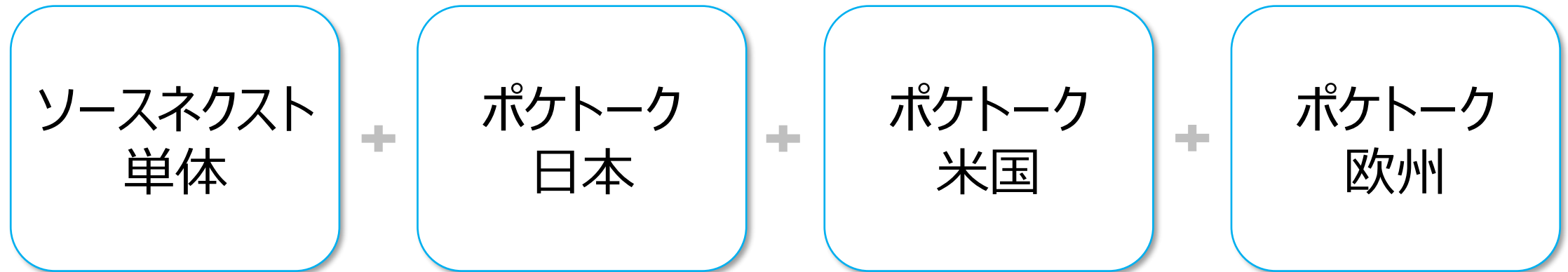
株式上場に向けて、監査法人との協議や社内体制の整備を進めています。

今後の見通し

当社は、2026年の上場を目途として準備を進めています。株式上場に際しては、関係当局の承認を前提とすることに加え、株式上場の準備過程における検討の結果次第で、変動する可能性があります。また、本件に関し、今後開示すべき事由が生じた際には、速やかに開示を行なう予定です。

3) 業績補足説明

ソースネクストグループ



事業	2026年12月期（見込み）
ソースネクスト単体	- Windows11特需の反動はあるが、AI製品拡充で売上は前年同水準を確保見込み - AI活用で利益率の改善を継続
ポケットーク日本	- 法人向け新製品「ポケットーク X」等で売上を拡大 - 前期に実施した減損の影響で償却費が減少 - AI活用による業務革新により、利益率を改善
ポケットーク米国	- 教育機関の受注に回復の兆しあり、公共機関等の受注も増加 - 販売・運営体制の最適化で収益性重視の体制へ移行 - 年間6億円以上の収支改善により、黒字化見込み
ポケットーク欧州	- 人員体制・プロモーション費用の見直しで収益性向上 - 年間3億円規模の営業利益改善 - 上半期に初の半期営業黒字化、通期黒字化も見込む
ソースネクスト連結	- ポケットーク海外事業の黒字化やソースネクストの収益改善を推進 2026年12月期第3四半期は黒字化を見込む（22四半期ぶり）

今期の見通し

今期は、当グループの中期的な成長を牽引する重要な戦略的新製品を、
当社、ポケットーク社から、相次いで市場投入してまいります。

現在、これら新製品による売上拡大を見込んでおりますが、発売初期の顧客反応や需要動向によって、
最終的な業績数値（売上高・利益）の変動幅が大きく異なる可能性があります。

そのため、現時点での画一的な数値公表は投資家の皆様の判断をミスリードする恐れがあると判断し、
非開示とさせていただきます。

新製品の販売状況を慎重に見極めた上で、開示が可能になり次第、速やかに公表する方針です。

次の常識をつくる

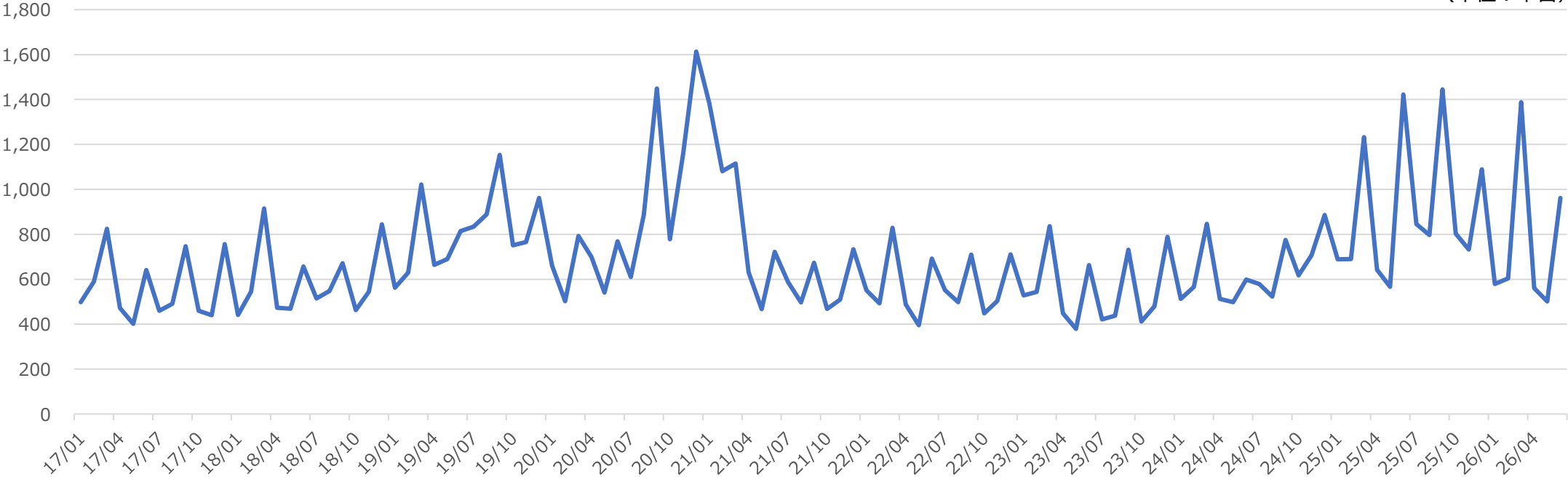
We Source What's Next.

参考資料：PC出荷台数推移

(単位：千台)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	498	589	825	472	401	641	459	491	747	460	440	756
2018年	441	545	915	473	469	657	514	548	671	463	545	844
2019年	562	630	1,022	664	690	814	834	889	1,153	751	765	962
2020年	660	502	792	699	540	769	610	888	1,449	778	1,160	1,613
2021年	1,384	1,081	1,115	631	467	722	588	497	673	468	509	733
2022年	551	493	829	488	395	692	552	498	709	448	503	711
2023年	528	543	836	448	379	663	421	438	731	412	479	788
2024年	512	565	846	512	498	599	579	523	775	617	707	886
2025年	689	690	1,232	642	566	1,422	845	797	1,445	803	732	1,089
2026年	579	604	1,388	560	501	962	-	-	-	-	-	-

(単位：千台)





本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更することがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんので、ご了承ください。